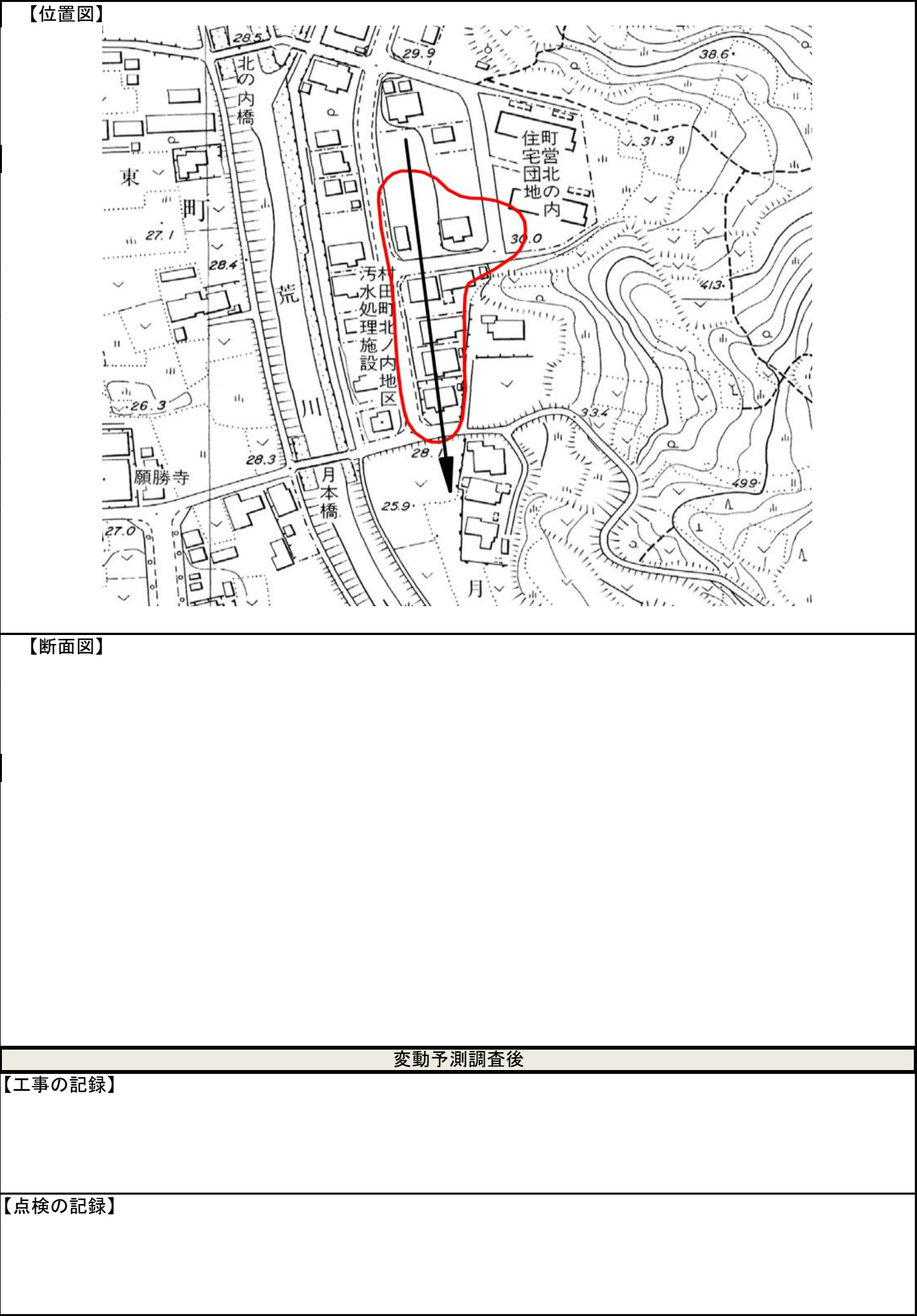


宅 地 概 要 (第一次スクリーニング結果)												
盛土番号	村田町_1	宅地名			造成(許可)年代	昭和60年						
所在地住所	村田字北ノ内1-1											
盛土形式	<input checked="" type="checkbox"/> 人工造成地 (<input checked="" type="checkbox"/> 谷埋め型 <input type="checkbox"/> 腹付け型) <input type="checkbox"/> 自然斜面											
盛土形状	盛土面積A	318,000	m ²	盛土幅W	61.6	m	盛土距離d	122.4	m	天端幅(腹付け型)L	-	m
	盛土高さH	3.3		盛土厚さD	-	m	原地盤勾配θ	1.5	°			
宅 地 概 要 (第二次スクリーニング計画の作成)												
優先度評価項目				判 定 (記 事)								
①	盛土および擁壁の形状と構造が標準的な形状と構造に該当			<input type="checkbox"/> 非該当 <input checked="" type="checkbox"/> 該当		(標準構造に該当)						
②	宅地地盤・擁壁・のり面の変状			<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		(変状 無)						
③	地下水			<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 可能性有		(地下水 無)						
④	盛土の下の不安定な土層			<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 不明		(不安定な土層 不明)						
⑤	造成年代 (基準年以前／後)			<input type="checkbox"/> 以前 <input checked="" type="checkbox"/> 後		(基準年:昭和50年)						
⑥	変動確率			<input type="checkbox"/> 大 <input checked="" type="checkbox"/> 小		(方式1 17点)						
【総評】	盛土内は傾斜がほぼなく、変状や地下水の異常も見られない。 よって優先度評価は低ランク相当となる。 今後、経過観察(地震時、大雨時、定期点検)を進め、活動崩落を示唆する変状が現れた際には、第二次スクリーニングの実施が望ましい。 一部で東北太平洋沖地震地震時の液状化によるマンホールの飛び出しが確認されるが、傾斜が無いことから滑動崩落には結びつかないと思われる。(写真14・15)					想定被害形態						
						すべり変形						
						優先度						
						C						
宅 地 概 要 (第二次スクリーニング)												
【地盤定数】						【安定計算結果】						
		代表N値	単位体積重量 (kN/m ³)	粘着力 (kN/m ²)	内部摩擦角 (°)	せん断波速度 (m/s)			常時	地震時		
【総評】						変動予測調査後						
						【工事の記録】						
					【点検の記録】							



村田町_1 様式3

基礎資料整理				現地踏査									
チェック項目		判定（記事）		調査日時		天気記録	調査日	1日前	2日前	3日前	4日前	5日前	
保全対象	・住宅	■有	□無	(18)軒()									
	・公共施設等	■有	□無	・宅地内の平面図との相違									
				・盛土形状の机上調査との相違									
				・盛土末端部の状況									
各種指定	・各種指定の有無	□有	■無	土質地質									
				・盛土材料の確認									
				・既往調査の資料									
	・その他特記事項	—	・その他特記事項										
優先度評価項目		判定（記事）											
その他	⑤ 造成年代	基準年代(昭和50年4月1日)	□ 以前	■ 後	造成年代(昭和60年)								
					・その他特記事項								
					⑥ 変動確率								
					・その他特記事項								
【平面図】				凡 例									
				谷埋め型盛土									
				腹付け型盛土									
				盛土中心線(測線)									
				1 ➡ 撮影番号・撮影方向									
				1 ➡ 撮影番号・撮影方向 (形状と構造)									
				1 ➡ 撮影番号・撮影方向 (変状)									
				1 ➡ 撮影番号・撮影方向 (地下水)									
				①形状・構造箇所									
				✕ 既存ボーリング位置									
				【総評】				盛土内は傾斜がほぼなく、変状や地下水の異常も見られない。よって優先度評価は低ランク相当となる。今後、経過観察(地震時、大雨時、定期点検)を進め、活動崩落を示唆する変状が現れた際には、第二次スクリーニングの実施が望ましい。一部で東北太平洋沖地震地震時の液状化によるマンホールの飛び出しが確認されるが、傾斜が無いことから滑動崩落には結びつかないと思われる。(写真14・15)					
被害形態													
すべり変形													
優先度													
C													



写真1 下流部道路と歩道の状況



写真2 中流部道路の状況



写真3 上流部道路の状況



写真4 下流部道路の状況



写真5 下流部道路の状況



写真6 下流部道路の状況



写真7 下流部道路の状況



写真8 下流部道路と歩道の状況



写真9 中流部擁壁にコケあり



写真10 中流部擁壁に小規模の亀裂あり



写真11 上流部道路の状況



写真12 上流部畑の状況



写真13 末端部のり面の状況



写真14 液状化によるマンホールの飛び出し



写真15 写真14とは別位置